

千葉県九十九里沖における協議会（第1回）

○日時

令和7年12月15日（月）13時00分～14時30分

○場所

TKPガーデンシティ千葉 3階 「シンフォニア」
（千葉ポートスクエア ザキューブホテル千葉内）
（WEB会議を併用）

○参加者（※WEB参加者を示す）

（構成員）

経済産業省資源エネルギー庁 新エネルギー課風力政策室 室長	古川 雄一
国土交通省港湾局 海洋・環境課海洋利用調査センター 所長	佐渡 英樹
農林水産省 水産庁資源管理部管理調整課 計画官	馬場 俊介
千葉県商工労働部 部長	関 雄二
千葉県商工労働部 次長	吉川 泰弘
山武市 市長	松下 浩明
九十九里町 町長	浅岡 厚
横芝光町 町長	佐藤 晴彦
（代理：横芝光町 産業課長	小川 健二）
千葉県漁業協同組合連合会 代表理事会長	坂本 雅信
九十九里漁業協同組合 代表理事組合長	小栗山 喜一郎
銚子市漁業協同組合 副組合長理事	和田 一夫
海匝漁業協同組合 代表理事組合長	伊藤 勝康
夷隅東部漁業協同組合 代表理事組合長	滝口 洋
日本内航海運組合総連合会 海務部長	逸見 幸利
東京理科大学 創域理工学部社会基盤工学科 嘱託教授	菊池 喜昭（欠席）
一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 理事	工藤 拓毅
一般社団法人海洋産業研究・振興協会	

事務局長兼研究部長	塩原 泰
一般社団法人	
海洋エネルギー漁業共生センター 理事	渋谷 正信
足利大学総合研究センター 特任教授	永尾 徹

(オブザーバー)

経済産業省資源エネルギー庁	
燃料環境適合利用推進課 課長補佐	井上 文※
環境省大臣官房	
地域政策課洋上風力環境調査室 室長補佐	野玉 悠葵
(代理：環境省大臣官房	
地域政策課洋上風力環境調査室	
室長補佐	山田 陽巳) ※
公益財団法人海洋生物環境研究所中央研究所	
海洋生物グループ 主幹研究員	島 隆夫
銚子市企画課 課長	飯笹 博充※
旭市環境課 課長	大八木 利武
いすみ市企画政策課 課長	伊藤 洋之

○議題

(1) 本協議会の運営について

- 経済産業省（事務局）より資料3（協議会運営規程（案））を提案、承認された。
- 構成員による推挙により、座長を足利大学永尾構成員、座長からの指名により、副座長を海洋産業研究・振興協会塩原構成員と選任。
- 座長より、協議会の公開の方法について、録画配信を行う、一般傍聴や報道関係者の傍聴を認める、議事要旨及び議事録を公表するとの方法を提案、承認された。

(2) 説明・意見交換

経済産業省（事務局）／国土交通省（事務局）

- 資料4（第1回千葉県九十九里沖における協議会）を説明。

経済産業省（事務局）／千葉県（事務局）

- 資料5（千葉県九十九里沖区域の概要図）を説明。

日本内航海運組合総連合会

- 資料6（千葉県九十九里沖協議会 船舶航行安全に関する要望事項）を説明。
- 船舶通航量（資料5）として示されている船舶は、AIS（船舶自動識別装置）搭載船舶のみであり、内航貨物船においてはAISの搭載義務の無い499トン以下の小型船舶が60%以上を占めている。
- 2020年2月と6月の船舶通航量（資料6）を比較すると、2月は6月と比べ陸寄の船舶通航量が多くなっており、これは冬季においては小型船舶が時化を避けるため、陸寄を航行しているためである。
- 航跡（資料6）で見ると、当海域においてはAIS搭載船だけでも月20～30隻程度の通航があり、AIS非搭載の小型船舶についてはそれ以上の通航があることが容易に想定され、示されている船舶通航量（資料5）と当協会における船舶通航量の認識は大きく異なっている。
- 千葉県沖において船舶は犬吠埼（灯台）と八幡岬（灯台）の間を直線的に航行している（資料5）が、冬季において陸寄りを航行する場合は、八幡岬からいすみ市沖区域（有望区域）の陸側（陸との距離1.4NM）、九十九里沖・銚子沖区域（有望区域）の沖側を通り、犬吠埼に向かうコースとなり複数回の変針が生じることとなる。
- 変針が生じると船舶の見合い関係が発生し、衝突リスクが高まるため船舶の安全運航に関しては他の区域ともあわせて検討いただきたい。

九十九里漁業協同組合

- 第1回協議会の開催を喜ばしく思っている。
- 当組合は2市4町1村の広域において操業しており、また当地域において漁業は基幹産業であり、地域の生活と文化を支える柱となっている。
- 九十九里の沖合は黒潮と親潮が交差する有数の好漁場であり、イワシ漁が巻き網を中心として盛んに行われ、またハマグリ（九十九里地はまぐり）が年間500トン以上安定的に水揚げされている。
- 洋上風力発電の導入に際しては、漁業者の生活や操業、海域への影響を最小限とするため漁場環境の保全と地域の実態を十分に踏まえた漁業振興策、地域振興策を立案すること、漁業や航行の安全確保に向けた十分な調整、取組を行うことを強く要望する。
- 当組合においては、10年近くに渡り洋上風力発電に関する検討を重ね調整を進めてきており、このような状況を踏まえスピード感を持つ

て進めていただきたい。

- 本年9月に九十九里沖が特定区域として指定され、CCS事業の検討も進められてきており、洋上風力発電事業とCCS事業を一体的に進めていただきたい。
- 漁業者の理解を得るため、豊かな九十九里の海やイワシ・ハマグリをはじめとした地元の水産資源を守り、地域を盛り上げる事業となるよう、事業者においては丁寧な情報提供と対話を行っていただきたい。

銚子市漁業協同組合

- 洋上風力発電事業の推進には賛成である。
- 風車配置については漁業の操業に影響のないよう配慮いただきたい。
- 漁業共生については、漁業者と事業者の信頼関係を築き上げた上で進めていただきたい。

海匠漁業協同組合

- カーボンニュートラルの実現に向けて、洋上風力発電事業の重要性は理解しており、洋上風力発電事業の推進には賛成である。
- 事業を進めるに際しては、漁業操業に対する影響が生じないように進めていただきたい。
- 当組合では当海域において、旋網、固定式刺し網、小型底引き網、引き網など多様な漁業を行っており、事業者においては漁業や地域との共生を第一に考え、漁業者などと丁寧に話し合いながら事業を進めていただきたい。
- 当組合の操業海域である旭市沖においても、洋上風力発電の導入の検討を進め、本年10月に準備区域として整理されたところであり、当協議会における議論については旭市沖にとっても参考となる。

夷隅東部漁業協同組合

- 洋上風力発電事業については推進していきたく、組合員も含め協議の上で事業を容認するとの姿勢であるため、しっかりと協議を行った上で進めていただきたい。
- 当組合では当海域において、旋網、刺し網、蛸壺、引き網、延縄など様々な漁業で海面を利用している。
- 漁業で利用している海面において洋上風力発電事業が関係してくることとなるため、事業を進めていく中での懸念は尽きないものと想定され、協議の体制は崩さず進めていただきたい。

千葉県漁業協同組合連合会

- 各漁協の考えや要望などを尊重していただきたい。
- 県内では銚子市沖区域が先行しており、漁業共生策などについては当該区域の事例に従う、尊重するなど、当該区域とのバランスも確保しながら進めていただきたい。

九十九里町

- 当町は漁場と美しい海岸景観に恵まれ、漁業、農業、観光が支え合いながら発展してきた地域であり、こうした自然環境と地域資源は将来にわたり守り次世代に伝えていくべき大切な財産である。
- 現在、人口減少や産業構造の変化が進む中、時代に沿って地域の特性を活かしながら、どのように持続可能なまちづくりを行っていくかが重要な課題となっている。
- 再生可能エネルギーの導入は、脱炭素社会の実現や地域活性化に資するものと期待をしているが、洋上風力発電については漁業や観光との調和、自然環境や景観への配慮など慎重な対応が求められる事業であり、当町としても町民の理解と協力を得ながら丁寧に議論を進めていきたいと考えている。
- 当町の基本的な考え方について、1点目は、漁業関係の皆様との信頼関係を最も重視し、漁場環境や水産資源への影響を的確に把握し、漁業継続に支障が生じないよう十分な調査と対策を求めていきたいと考えている。
- 2点目は、本町の基幹産業である漁業との共存が不可欠であり、漁業への影響を最小限に抑える取組みを求めるとともに、漁場環境の保全や漁業振興に資する施策にも対応いただきたいと考えている。
- 3点目は、生活環境や自然環境、景観面への配慮が必要であり、鳥類や海洋生物への影響、漁船からの視認性、夜間照明などについて十分な調査と検討をいただきたいと考えている。
- 4点目は、本事業が地域振興や雇用創出の機会となることを期待しており、建設や維持管理などにおいて地域企業等が参画できる仕組み作りが重要と考えている。
- 5点目は、事業の進捗や環境への影響について、住民や漁業関係者への丁寧で分かりやすい説明と意見交換の場の確保に取り組むことが重要と考えている。
- 当町として、国、県の進める施策に沿って、地域との調和を図りながら、再生可能エネルギーと地域振興の両立を目指していきたいと、本事業

業が町の発展に寄与することを期待している。

山武市

- 本市では、2050年までに市内の二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すべく、令和2年6月にゼロカーボンシティを宣言している。
- ゼロカーボンを目指す中で、本市の再生可能エネルギーの導入は太陽光発電が中心となっており、サンブスギの故郷であり森林を多く有する特性から林地開発での事業化が多く見受けられ、再生可能エネルギーの導入が進む一方で、環境破壊との相反する側面も助長され非常に悩ましい状況となっている。
- 再エネ海域利用法の施行により、洋上風力発電の導入が促進されることは、九十九里沖の海域に面する本市としても、ゼロカーボンへの動きを一気に加速させるチャンスと捉えている。
- 洋上風力発電については、日本の国家プロジェクトであり、資源に乏しい我が国において、海に囲まれた島国の特性や先端性あふれる発想や細やかな技術力を生かした底力を見せるときであり、期待と希望を持っている。
- 現在の有望区域は、離岸距離約10キロの海域であり、このまま促進区域となっていくものと想定され、本市の漁業への影響については、九十九里漁業組合内の成東・蓮沼の漁業関係者への影響が想定される。
- 漁船の操業への影響については、当然として、本市の特徴である、ハマグリを中心とした採貝漁業への影響についても十分に考慮いただきたい。
- 日本を代表する砂浜海岸である九十九里浜への影響について、本市においては国際環境認証ブルーフラッグを取得している本須賀海水浴場を有しているが、九十九里浜は、現在、浸食により砂浜が後退し砂浜の保全が重要な課題となっている状況であり、また、漁業や観光などにおいても大変貴重で重要な資源でもあるため、影響については、十分に配慮いただきたい。
- 本協議会においては、述べた問題も含め、利害関係者の意見に耳を傾けながら、地域との共存共栄を図っていくものと理解している。
- 地域振興に対しても非常に期待をしており、サプライチェーンやメンテナンスに関する現地法人の設立や地元企業の活用など、関係市町を中心に県内に新たな産業が生まれ、広がっていくことを期待をしている。

- 本市においては、人口減少により、一部が過疎地域に指定されており、洋上風力発電関連産業の進出により、様々な地域課題の解決に繋がる地域振興を期待するとともに、市としても、それに歩調を合わせていけるよう、しっかりと検討していきたく、国や県においても、地域振興に対するご支援、ご協力をいただきたい。

横芝光町

- 当町は当区域の北端に位置しており、区域に面する部分は少ないが、当町と密接な関係を持つ九十九里漁協や海匠漁協に対する漁業共生策については、漁場の環境変化に不安を持つ漁業者もおり十分に配慮をいただきたい。
- 洋上風力発電は地域経済への波及効果も大きく、地元人材の活用を通じた雇用創出に大きく期待をしており、また生産年齢人口の減少が懸念されている状況であり、地元での就労の選択肢を広げる新たな関連産業の創出にも期待をしている。
- 洋上風車完成後には、九十九里地域の観光資源としての活用が進み、経済効果を通じた、地域の更なる活性化が図られることにも期待をしており、当町は成田空港に近い地域的特性も有していることから洋上風車と観光との連携を検討いただき、相乗効果が高まる取組みを提案いただきたい。

日本内航海運組合総連合会

- 洋上風力発電事業については、日本のエネルギー供給の将来を担う重要な事業であるとの理解である。
- 着床式洋上風力発電の設置海域については、船舶の航行帯と重複している海域もあり、海難事故などが増加しないよう共存に向けて丁寧に検討いただきたい。

千葉県（事務局）

- 協議会の開催に至ったことは、地元漁協、地元自治体をはじめとする地域の皆様のご協力があったのものであり、感謝を申し上げます。
- 九十九里沖は離岸距離約10キロの一般海域であるため、関係する漁協の数も多い。事業者においては漁業に支障を及ぼさないよう配慮いただくとともに、漁業共生の取組みを地域と一緒に進めていただきたい。
- 県としては、九十九里沖の洋上風力発電事業を進めるに際しては地域

の意見を丁寧に聴いていきたいと考えている。

- 洋上風力発電の導入について、送変電設備などの工事の受注や関連産業への参入による産業振興、風車を活用した観光振興など、地域経済の活性化に繋げていきたい、事業者においては可能な限り県内企業を活用し、多くの県内企業がサプライチェーンに参画できるように取り組んでいきたい。
- 洋上風力発電事業については秋田県及び銚子市沖の3海域において事業者が撤退し、現在国において公募制度などの見直しを行っているところ、県として、国や地元関係者などと連携し当海域における洋上風力発電の導入に向けてしっかりと取り組んでいきたい。

水産庁

- 今回の第1回の協議会開催に至るまで、関係自治体、関係漁協を中心に、長年に渡る検討が積み重ねられてきたものと認識をしている。
- 引き続き、関係漁業者の皆様の意見を丁寧に汲み取り、それが協議会における議論に反映されるよう、また漁業との協調共生策などについての十分な議論が行われ、関係漁業者の皆様の懸念が払拭されるよう進めていきたいと考えている。

日本エネルギー経済研究所

- 過去に他地域の協議会に参加してきている中、本協議会が一番異なる点は資料のボリュームが非常に多いことであり、これは他地域における協議会の経験や実績が積みあがってきたからであるものと考えている。
- 洋上風力発電事業と漁業の持続的な共存共栄、地元の企業・産業の持続的な振興などをどのように実現していくかが将来的な目的であり、協議会意見は、その実現に向けた地元としてのメッセージであるものと考えている。
- 他地域と共通するメッセージについては取入れるとともに、当地域の特性に応じたメッセージは何であるかを協議会において議論し、事業者に対して、そのメッセージが伝わるよう、とりまとめていただきたい。
- 当地域は銚子市沖など、他地域と近接しており、各地域において、事業性も含めて、地元との共存共栄がより良い形で実現できるよう、地域間の連携に関する議論も行っていたり、また、同様ケースは今後も出てくるものと想定され、新しいチャレンジでもある。

- 洋上風力発電事業は、国民負担や地元の協力など、様々な方の協力や負担により成立しているものであるため、公平性・公正性・透明性を持って進めていくことが大切な原則であり、その視点を忘れず進めていただきたい。

海洋エネルギー漁業共生センター

- 当海域は北に銚子市沖の区域、南にいすみ市沖の区域が存在し、また日本一長い砂浜海岸である九十九里浜を有している非常に特徴的な海域であり、その特徴を踏まえて漁業共生や風車の設置など検討していくことが大事である。
- 関係する九十九里、銚子市、海匝、夷隅東部の各漁協ともに、洋上風力発電事業に対しては好意的で非常によい形で合意形成がなされている海域であり、今後においても期待が持てる。
- 漁業との共生について、各漁協など地域が事業に対して前向きな姿勢であることは、良い形を作上げていく上で非常に大きな力となり、また前向きな姿勢を生かし当海域において、より良い形を作上げていくとの使命感を持って進めていくことが良い結果にも繋がっていくものと考えている。
- 漁業共生については、海域全体で広く考えていくことが大事であり、風車設置海域における共生策と同時に沿岸部において、九十九里浜が後退していることや、ハマグリなど重要産業があることなどについても漁業共生とどのように絡めていくか、検討していくことが非常に大事である。沖合4～5 Kmに風車設置海域のある長崎県の五島市沖においては、沿岸部の藻場の造成を行っている。
- 共生策を考えていく上では、海域や地域の詳細な実態把握が必要不可欠であり、把握無しに良い共生策を考えていくことはできないため、詳細な実態調査が行える仕組みを構築いただきたい。
- 事業を進めていくに際しては、地域、漁業者と一緒に進めていくことが大事であり、一緒に進めていくことで様々な事が前に進んでいくものと考えている。

海洋産業研究・振興協会

- 今後、協議会意見をとりまとめていくに際しては、地域、漁業者の意見を聴き、それを基に協議会において議論を行っていただきたい。
- 先行している銚子市沖の漁業共生策などが非常に参考となるものと考え

えており、また当海域と銚子市沖の双方に良い影響を与える共生策もあるものと考えており、そのような観点も踏まえてとりまとめたいただきたい。

- 2050年のカーボンニュートラルの実現に向けては、洋上風力と共にCCSも重要であり、両方を行う地域は当地域が日本で初めてであることから注目される点である。

経済産業省（事務局）

- 地元の漁業関係者や自治体の皆様に対しては、これまで多大なご協力・ご尽力をいただいていることに改めて深く感謝申し上げます。
- 漁業との共生については、温暖化による魚種変化や漁獲量の減少、担い手不足など全国的な課題を伺っており、そのような中で洋上風力を受け入れていただく地域の皆様と、漁業と共存共栄できる洋上風力を実現していくことが極めて重要であると考えている。
- 漁業への影響回避の観点から、設置が困難なエリアや工事を行えない時期などについて丁寧に伺う必要がある。水産資源や漁業環境への影響については、次回以降、専門家による説明の機会を設け、構成員の専門的知見も踏まえて議論を深めていきたい。
- 漁業振興策についてもご要望をいただいております、流通・販売支援や稚魚放流など他海域の事例も参考にしつつ、今後、地元漁業者の皆様と相談を進めていきたい。
- 生活環境や鳥類など生物多様性、景観への影響については、環境省とも連携しながら、地域の懸念を丁寧に払拭していきたい。
- 地域経済への影響についても、地元企業の活用など他海域の事例も参考としながら、地域の皆様に納得いただける共生策について、今後ご相談をさせていただきたい。
- CCS事業との関係については、所管部局とも密に連携し、相互に支障が生じないように調整を進めていく。

国土交通省（事務局）

- 地元関係者の皆様に対しては、本日に至るまで長期に渡り検討を行ってきていることなど、大変なご尽力に感謝申し上げます。
- 船舶の安全航行について、今後関係者の皆様と意見交換をさせていただき、実態も踏まえながら調整していきたい。
- 漁船からの視認性について、今後他海域の検討事例なども参考にしながら、調整させていただく。

足利大学（座長）

- 事務局においては本日の議論を踏まえて、次回以降に向けて、準備いただきたい。

以上